

黒川エリア てくてくマップ



💡 こんな場所だよ！

どうして「黒川」？

明治 10 年に灌漑（かんがい）と舟運を目的に開削された堀川の上流部分の通称。

この大事業の工事を担当した愛知県技師、黒川治愿（くろかわはるよし）の偉業を称え、現在でもこの区間は「黒川」とよばれている。

地下鉄の駅名や地名もこれに由来している。

① **天然プールの碑** ※三階橋の工事に伴い一時撤去中
かつてこの場所には、庄内川から取り入れた水を、庄内用水、黒川、御用水、志賀用水、上飯田用水などに分配する大きな池があった。この池は天然プールと呼ばれ、子供達の絶好の遊び場であったが、昭和 52 年に三階橋ポンプ所の建設により姿を消した。

② 黒川樋門

この樋門は、天然プールに貯めた水を黒川へ取り入れるための施設で、昭和 55 年に復元されたもの。名古屋市都市景観重要建築物に指定されている。

③ 御用水跡街園

寛文 3 年（1663）、名古屋城のお堀や水道用の水として、庄内川の水を矢田川を介して引き入れていた用水の跡地。

現在は、散策路となっており、春には満開の桜並木が楽しめる。

④ 羊神社

祭神は、天照大神（あまてらすおおみかみ）と火之迦具土神（ひのかぐつちかみ。火ぶせの神様）。

この神社のある「辻町」の地名も羊神社に由来し、「火辻」とされていたが、火を嫌って辻となったといわれている。

神社の境内には、羊が祭られており、その名にあやかり、羊年には、大勢の初詣客が訪れる。

⑤ 兒子八幡社

児子宮（ちごのみや）の愛称で親しまれている。神社の名が現すとおり、子供の守り神として崇められ、医学が発達していない時代、病気の快気やかんの虫の封じに多くの人々が訪れた。

⑥ 北清水親水広場

黒川が舟運に利用されていたころの船着場の跡地。この場所で、船の積み荷を下ろしたり、船の向きをかえたといわれている。

現在は、当時の形状を残しながら親水広場として整備されている。

⑦ 多奈波太神社

祭神は、天之棚機姫命（あめのたなばたひめ）など六柱。天之棚機姫命は、機織りの神様で、神衣を織って天照大神に仕えた。神社では、その神の名から七夕祭が行われるようになったといわれている。

⑧ 平手政秀宅址

若き日の織田信長の守役であった平手政秀の居城跡。うつけ者と言われ、なんども注意してもいっこうに聞き入れる様子がない信長に、政秀は、最後に書をしたためて自殺をはかった。さすがの信長もこれには後悔をし、行動を改めたといわれている。

Memo

マップの記号



なにか新たな発見があるかも？スポット



ちょっといい風景かも！



公衆トイレ